



夏の脱水でリスクが上がる薬剤と、在宅・施設でのシックデイ対応

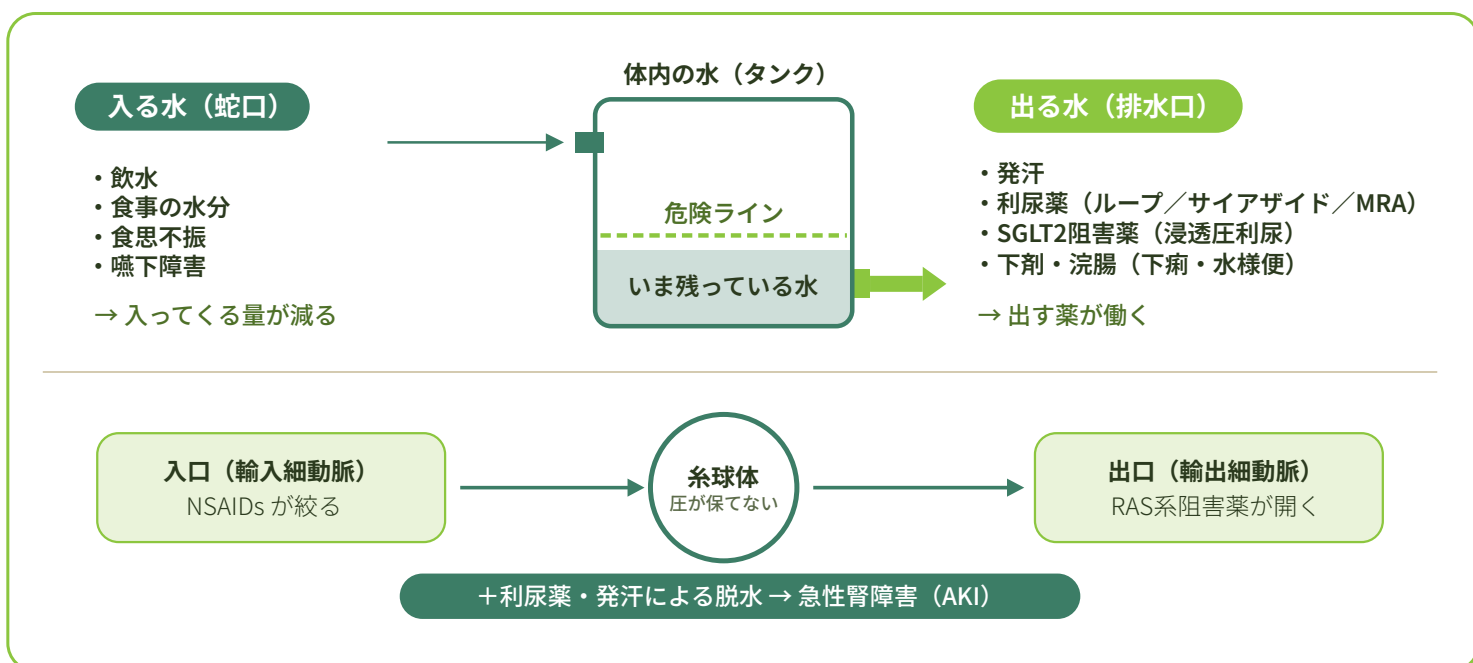
高齢者では加齢に伴う総体水分量の減少や口渴反応の低下などから、脱水に気づきにくくなることがあります。そこへ利尿薬やSGLT2阻害薬のように水を外へ出す薬、RAS系阻害薬やNSAIDsのように脱水時の腎血流調節を効かなくする薬が重なると、急性腎障害（AKI）などの発症につながります。

今回の概要

処方が変わらなくても、夏はリスクが上がることもある。特に注意すべきは利尿薬＋RAS系阻害薬＋NSAIDsの3剤併用（トリプルワーマー）

インフォグラフィック

体内の水タンクで考えるトリプルワーマー



在宅・地域連携コーナー

在宅の現場で気づけること～ケアマネジャー・訪問看護のみなさまへ～

次の変化に気づいたら、些細なことでも医療機関にご連絡ください。

- | | |
|--|---|
| ☐ 体重が1週間で1kg前後減っている | ☐ 下痢・嘔吐がある |
| ☐ 食事が普段の半分も摂れない日が続く | ☐ ぼんやりしている・返事が遅い・元気がない |
| ☐ 立ち上がったときにふらつく | ☐ 舌・口の中が乾く／義歯が合わなくなった |

特に注意が必要

- ① 糖尿病薬を服用している方が食べられないとき ② 利尿薬＋RAS系阻害薬＋NSAIDsの併用
③ 尿が薄くても上のサインがあるとき

参考文献：

日本糖尿病学会「SGLT2阻害薬の適正使用に関するRecommendation」、日本糖尿病学会「メトホルミンの適正使用に関するRecommendation」
日本救急医学会「熱中症診療ガイドライン2024」、日本老年医学会「高齢者の安全な薬物療法ガイドライン2025」
各薬剤の電子添文



発行：メトロ調剤薬局

本紙は印刷してご活用いただけます。
ホームページ（QRコード）では詳細版をご覧ください。

Web版では

- ▶ より詳しい解説
- ▶ AI解説動画

#トリプルワーマー